

「自由を得させるために」

1. はじめに

- ・ガラテヤ書の問題意識はパウロが伝えた福音から急速に離れていった信者たちに、もう一度原点に戻れという事であった。パウロはイエスを信じた者に対して、福音を別の角度から福音を説明する。それが自由という言葉である。
- ・当時の具体的・現実的な事実として、自由人と奴隷という身分制度。(現在のトルコ北部)
 - ・奴隷と自由のこと。約束の子イサクと奴隷の女ハガル。(4 : 21 ~ 31)
 - ・福音は「罪からの解放」を意味する。
 - ・本文はその福音をどのような言葉で伝えるか、「自由」。他に「平和」。(ローマ 5 : 1)

2. 本文

- ・パウロの嘆き ローマ 7 : 14 ~ 24 (前提は十字架と復活)
- ・自由についての他の箇所
 - ・I コリ 9 : 1 ~ 19 私には自由がないのでしょうか
 - ・ローマ 14 章 信仰の弱い人を受け入れなさい
 - ・ローマ 15 章 力のない人たちの弱さをになうべきです
- ・自由をどう言っているか—律法の考え方と福音の考え方の峻別。
 - ・自由を得させるために、(1 節)
 - ・割礼は意味がない。
 - ・自由を与えられるために (13 節)
 - ・御霊によって歩みなさい。(16 節)
 - ・聖霊の実、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制。(22, 23 節)
 - ・私たちは目的があって初めて態度が決まります。その態度とはこのようなことです。
 - ・福音を伝えるために、奴隷になりました。(I コリ 9 : 19)
 - ・「私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました」
 - ・ガラテヤ 6 : 1 ~ 5
- ・ローマ 5 : 1 ~ 3
 - ・平和を持っている。(1 節)
 - ・これは恵みである。(2 節)
 - ・艱難さえも喜んでいきます。(3 節)

3. おわりに

- ・イエスを信じるということは「自由を与えられる」ということです。
- ・信仰をもっと積極的に解釈したらどうなるか。